

いきいき健康術 第94回

「ムカデ^{こう}咬^{しょう}傷」

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は、国保京丹波町病院和知診療所の庄林智所長。最近、ムカデに咬まれたときに取り入れられている治療法に関するお話です。

春から夏にかけてムカデに咬まれて来院する患者さんが急増します。玄関で靴を履いたときや農作業をしようと軍手をはめたときに、中に潜んでいたムカデに足先や指先を咬まれたとか、寝ているときに痛みが走り驚いて明かりをつけたら、ムカデが布団の上をはついていたとか、田舎ではよくある出来事です。

ある殺虫剤会社のホームページには「ムカデに咬まれたら直ちにアゴを引き離し、ムカデの頭を叩きつぶす。咬みあとから毒をできるだけねばり強く時間をかけて絞り出すこと」と書いてあります。その場でムカデを退治することはさておき、傷口を水で洗い流し毒が広がらないように患部周辺を冷やし、抗ヒスタミン剤やステロイド剤の入っている軟膏を塗るのが一般的な治療とされています。

しかし最近、ムカデ咬傷に対する「温熱療法」が一部の医療機関で実践され始めています。ムカデの毒は激しい炎症を起こす酵素のほか、ポリペプチドやヒスタミンが含まれており、これらはタンパク質で構成されているので四十二度以上の熱により変性しやすいのです。そして、ムカデ咬傷の場合、ごく浅い皮膚表面の傷から毒が入るので、四十二度以上、できれば四十五度前後の熱めのシャワーをかけて流すと毒が広がるのを抑えることができるというわけです。



所長 庄林 智 先生 (和知診療所)

ムカデは、人命にかかわる被害はほとんどなく、日本ではムカデの咬傷により死亡した例は報告されていません。しかし、何度も咬まれるとアナフィラキシーショックを発症することもあり、海外では死亡例もあることです。咬まれた場合には、速やかに医師の診察を受けることをお勧めします。

お知らせ

和知診療所では、訪問診察を火曜の午後に行っています。また、訪問看護についても随時行っていますので相談ください。

☎ 84-1112